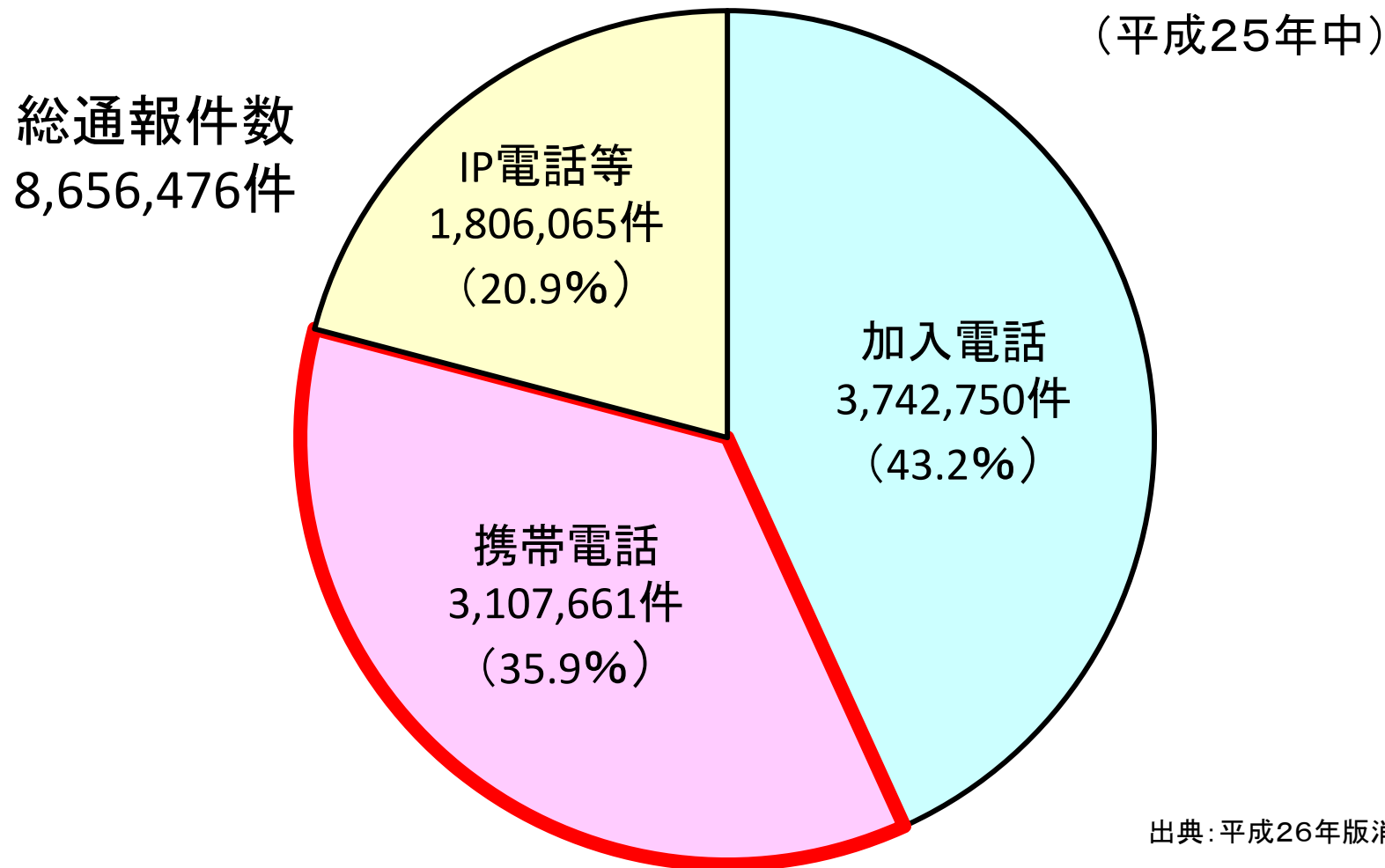


検討背景及び経緯

119番通報件数

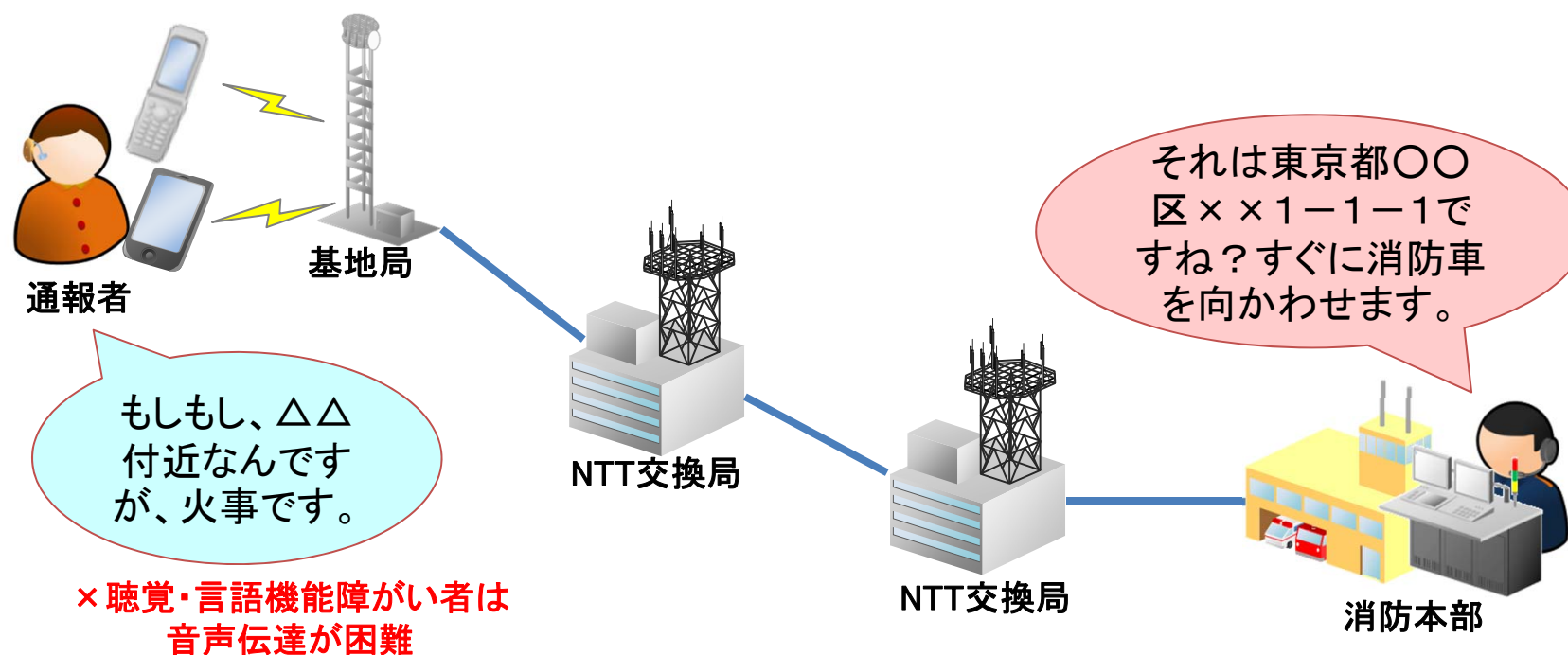


携帯電話からの通報が全体の約36%を占める。

119番通報の現状

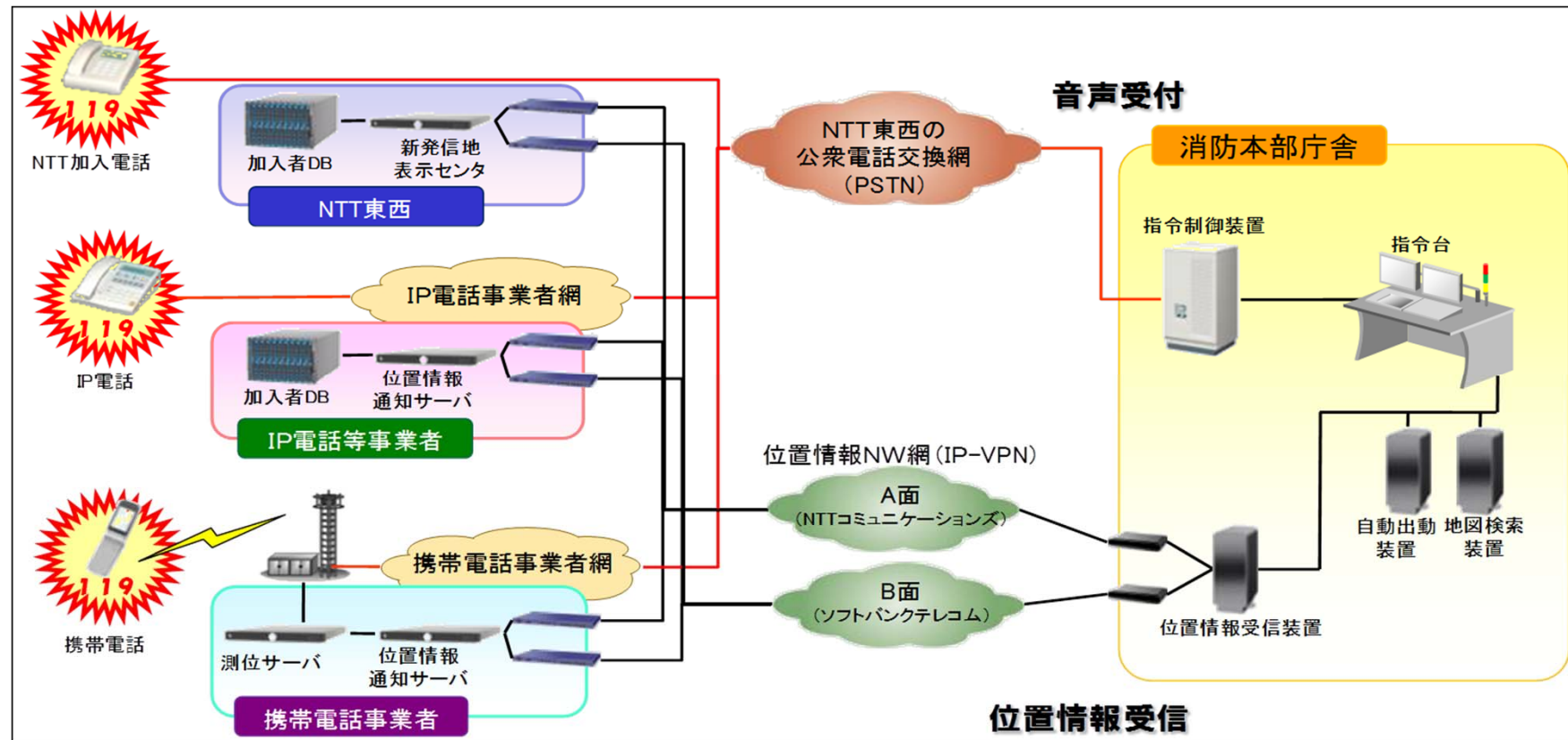
●119番通報の現状

現在の119番通報は、公衆電話交換網を利用した音声による通報の仕組みで運用されており、音声による意思疎通が困難である聴覚・言語機能障がい者に対して、十分配慮されているという状況とは言えない。一部地域においては、音声通報の代替手段として、FAXや電子メール等が用いられているところ。



【参考】音声による119番通報の仕組み

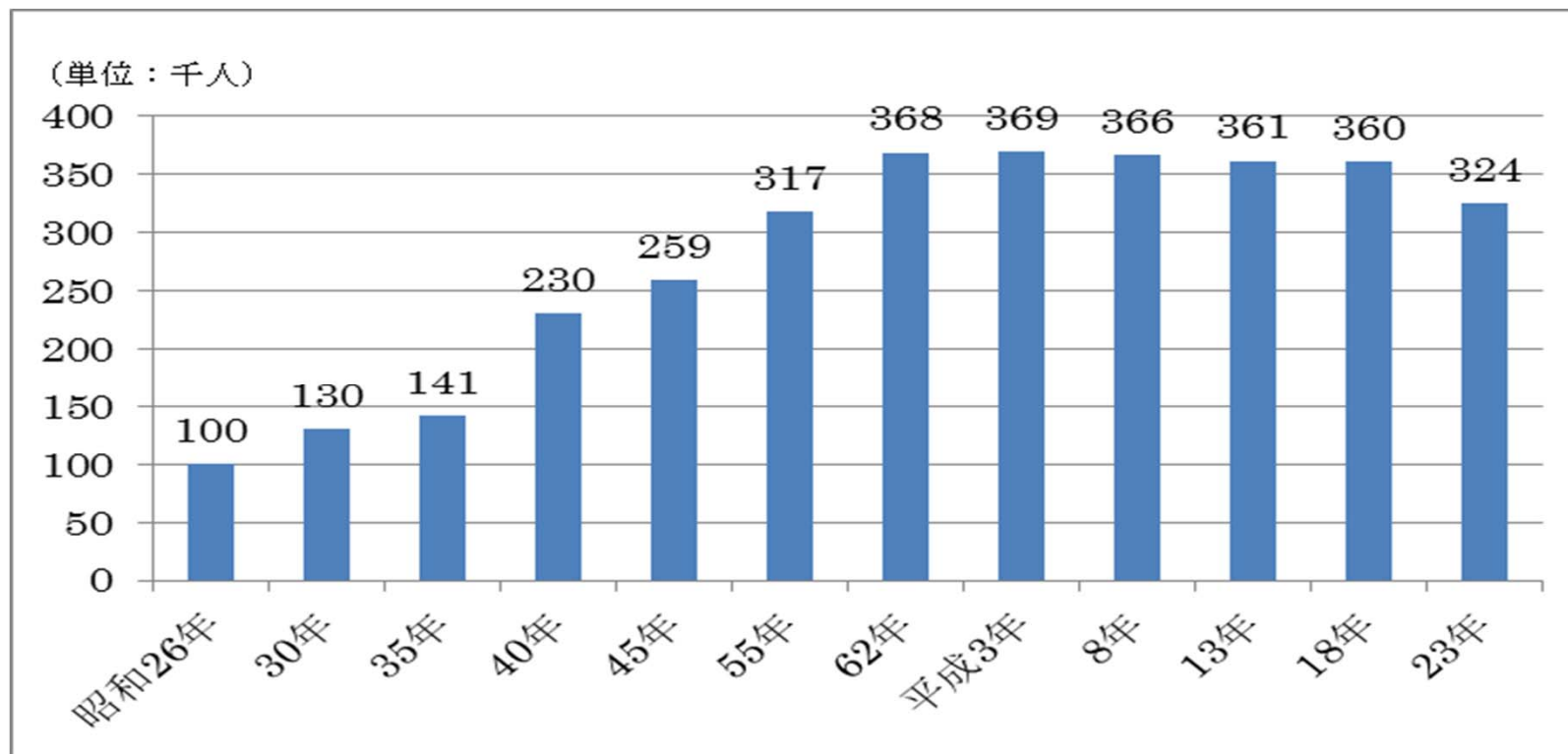
消防本部にて音声による119番通報を受信すると、発信者電話番号をキーに固定電話・IP電話の加入者情報、携帯電話の位置情報(GPSおよび基地局情報)が消防本部に送信され、通報場所の特定や救命救助活動に利用されている。



出典: 消防庁「聴覚・言語機能障がいに対応した緊急通報技術に関する検討会」報告書

聴覚・言語機能障がい者の推移

聴覚・言語機能障がい者の推移(推計値)



※平成23年は岩手県、宮城県、福島県は東日本大震災の影響により調査未実施

出典：厚生労働省「平成23年生活のしづらさなどに関する調査(全国在宅障害児・者等の実態調査)」

聴覚・言語機能障がい者として障害者手帳を取得している人は約**32万人**(平成23年)

【参考】音声以外の通報代替手段

●FAX、電子メール等の通報①

一部の消防本部では、音声の代替手段としてFAXや電子メールによる通報が可能である。

FAX通報



送信方向
矢印の方向にお送りください

この用紙を使ってファクシミリで119番通報ができます

☐ 119番ファクシミリ通報カード ☐

送信番号(Emergency Fax No.): **119**

どうしましたか? ☐ をつけてください

火事 救急 その他

Service you want: ☒ Fire ☐ Ambulance ☐ Other

住所 (Address) 区市町丁目番号

建物名称 (Bld Name & Room No.) 号室

私の名前 (My Name) あてはまる方は○をつけてください

電話番号 (TEL) 私 宅 公 営 共 済 社 会 福 祉 会 等

FAX番号 (FAX) けが、急病の人は 不自由です

火事 ☐ をつけてください 何が燃えていますか?

自宅・近隣の家・車・その他 ()

救急 ☐ をつけてください けが・急病の人は誰ですか? 私・家族・友人

体のどこですか? どんな症状ですか?

意識がない いたい

熱がある はいた・気持ち悪い

くるしい 血がでた

めまいがする しびれる

その他 ()

救急現場に、住所・氏名・連絡先をあらかじめ記入しておきましょう

メール通報



出典:東京消防庁HP「119番通報のしくみなど」

聴覚・言語機能障がい者向け通報の現状

●FAX、電子メール等の通報②

また、Webによる通報を受け付けている消防本部もある。現状については、以下のとおりとなっている。

ー 既存事業者が提供するサービスは、約120消防本部において導入済。
(平成27年8月)

ー サービス利用時に申請した事前登録住所を管轄する消防本部に通報される仕様となっている。

(例えば、旅行や出張時等、管轄消防本部を離れた際に本サービスを利用する場合でも、最寄りの消防本部への通報ではなく、事前登録された住所を管轄する消防本部へ通報される。)

これまでの検討経緯(1)

●経緯

H22年度消防庁検討会において、音声によらない通報の形態について検討を実施し、その結果を踏まえ、H24～26年度に消防防災科学技術研究推進制度を用いて、主にWeb方式^(※)による通報方法について、研究がなされてきたところ。

(※)個人情報をサーバで管理する方式

【参考】

H22年度 消防庁検討会

聴覚・言語機能障がい者に対応した緊急通報技術に関する検討会

H24年度～H26年度 消防防災科学技術研究推進制度

- －大規模災害、聴覚・言語機能障害に対応した緊急通報技術の開発
- －聴覚・言語機能障がい者のための緊急ユニバーサル・コミュニケーション・システム
- －聴覚・言語機能障がい者のための緊急通報システムの開発（平成25年度のみ）

これまでの検討経緯(2)

●H22年度 消防庁検討会

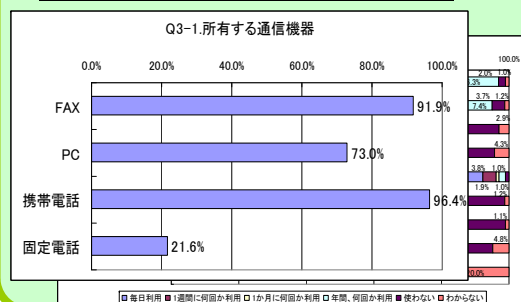
「聴覚・言語機能障がい者に対応した緊急通報技術に関する検討会」

- ー 現在の119番通報は、音声による意思疎通が困難な人(聴覚・言語機能障がい者、病気等により発声できない人、外国人等)に対するサポートが万全ではないという課題の解決に向けて検討し、以下の方向性が定められた。

「今後は携帯電話等からテキストなどの視覚情報の伝達が容易であるパケット通信を用いた緊急通報の仕組みを整備することが望ましい。」

聴覚・言語機能障がい者に身近なツールは
携帯電話保有率・メール利用率は**90%以上**

図 保有ICT端末等の利用状況



携帯電話・スマートフォンの機能を活用した新しい仕組み

- ・ 全国どこからでも**最寄の消防本部にアクセスできる**パケット型緊急通報のシステムの技術要件の詳細化
- ・ システム間の**互換性を持たせる仕様標準化**の検討
- ・ 開発・実用化を民間主導で仕様検討を継続

⇒ 平成23年度以降に議論すべき課題として提言

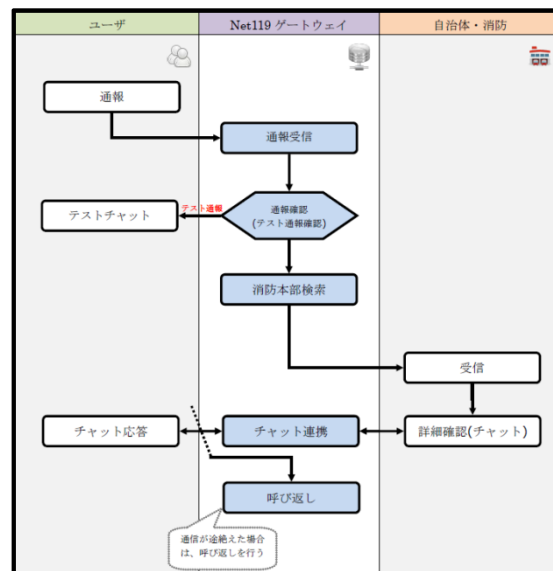
これまでの検討経緯(3)

●H24～26年度 消防防災科学技術研究推進制度

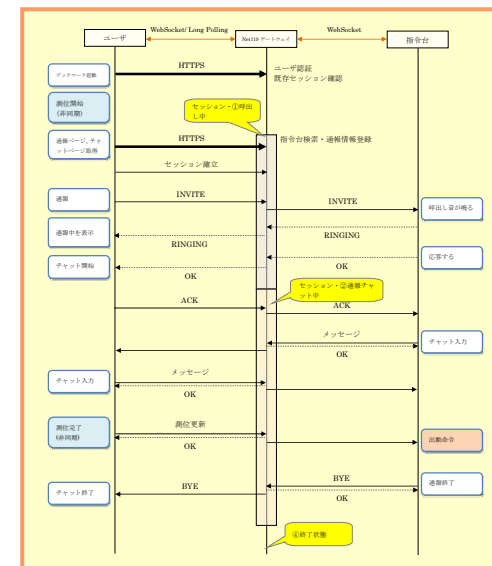
①「大規模災害、聴覚・言語機能障がいに対応した緊急通報技術の開発」

- ー 東日本大震災における消防本部および携帯電話事業者等の通信設備の被害状況および課題を調査し、通報のサービスモデルを検討
- ー システム技術仕様(通報・ゲートウェイ機能要件、パケット通信方式等)を検討
- ー プロトタイプを開発し、埼玉西部消防局にて実証試験にて技術仕様を確認

業務フロー

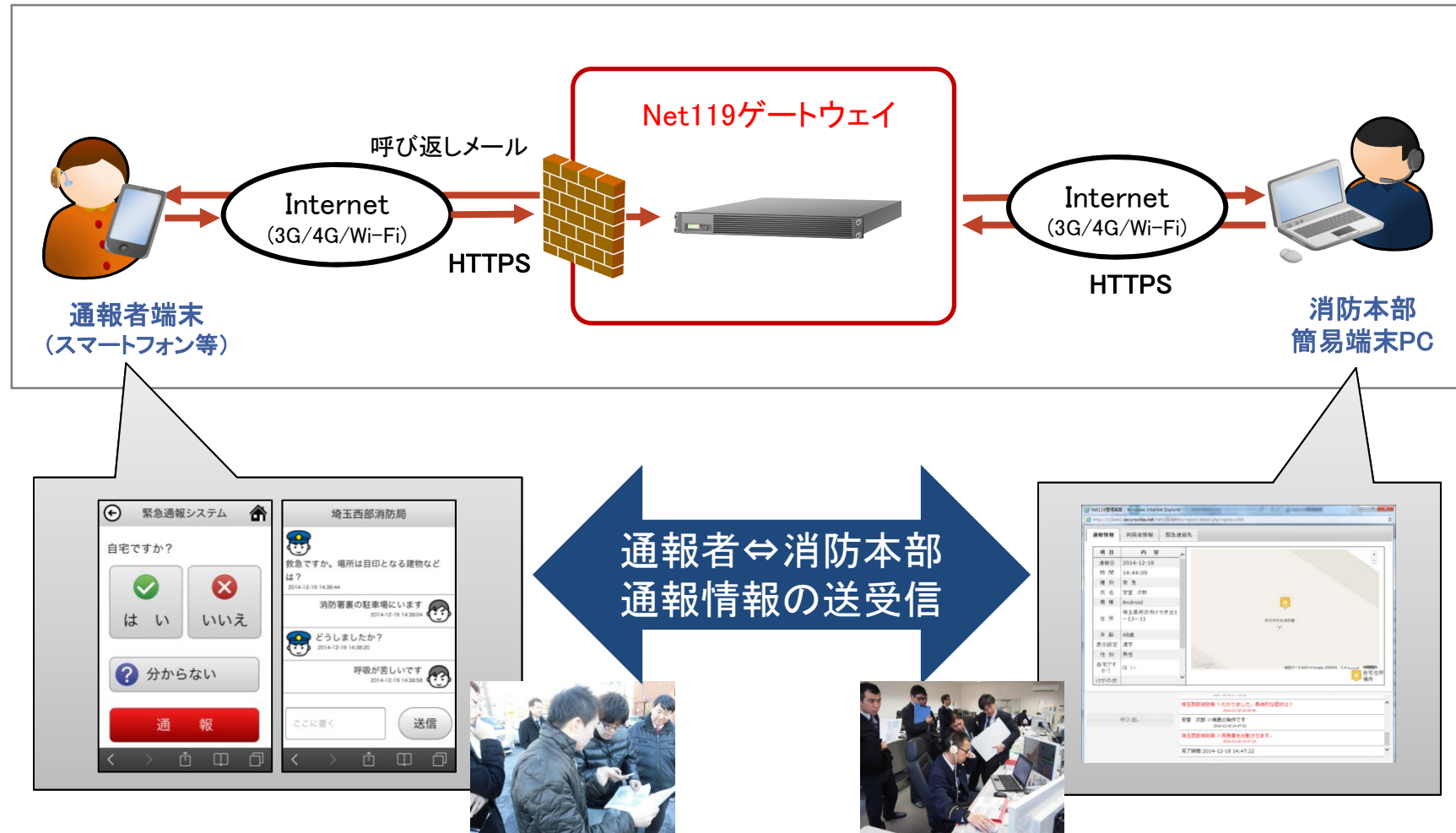


電文シーケンス・フォーマット



出典:「大規模災害、聴覚・言語機能障がいに対応した緊急通報技術の開発」報告書(平成26年度)より

【参考】H26年度実証システムの概念図



出典:「大規模災害、聴覚・言語機能障がいに対応した緊急通報技術の開発」報告書(平成26年度)より

これまでの経緯(4)

●H24～26年度 消防防災科学技術研究推進制度

②「聴覚・言語機能障害者のための緊急ユニバーサル・コミュニケーション・システム」

- ー 主にヒューマンインターフェースの観点から聴覚・言語機能障がい者の通報における画面要件を検討し、春日大野城那須川消防本部にて試作システムを検証

③「聴覚・言語機能障がい者のための緊急通報システムの開発」(平成25年度のみ)

- ー データ通信で送付される通報内容を自動的に音声に変換し、第3者通報サービス会社を経由して、消防本部に連絡する仕組みを検証